

発刊にあたって

びわこリハビリテーション専門職大学

学 長 山川 正信

びわこリハビリテーション専門職大学は、2019年11月に文科省の認可を受け、2020年4月に開学しました。開学から2年を経てようやく、機関誌「びわこ健康科学」を発刊する運びとなりましたことは大変喜ばしく、関係各位に厚くお礼申し上げます。

本学は関西初のリハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士）を養成する専門職大学であります。「専門職大学・専門職短期大学」制度は、短期大学制度創設以来55年ぶりとなる2017年に誕生した新たな大学制度であります。

その特色は、大学で学ぶ「知識」と専門学校で学ぶ「実践力」を併せ持ち、産業界と連携して実践と研究能力を高められる「創造力」を持った人材、つまり社会が求めるイノベーション人材の養成を目的としていることにあります。また、専門職大学は実務家教員を多数配置していることが最大の強みであり、本学には臨床やスポーツの現場、地域で活躍する多数の実務家教員を擁しています。また、机上での学習に加えて地域や施設、スポーツ界等との密接な連携を通じた教育にも多くの時間をかけ、様々な現場における課題発見や課題解決スキルを身に付け、即戦力となる人材養成を目標としています。

滋賀県は長寿県として知られるようになりましたが、リハビリテーションを必要とする人々は高齢者に限らず、今後ますます増加していくと考えられます。滋賀県では、リハビリテーションの専門職人材はまだ不足しており、幼児から高齢者までの成長と生活を支える作業療法士および、病気や怪我の後に元の生活を取り戻すリハビリテーションに加えて、様々なスポーツ競技の安全やパフォーマンス向上、フレイル予防等に取り組む理学療法士の需要は今後ますます広がります。

なかなか終息の目途が立たない昨年来の新型コロナウイルスの流行ですが、私たちに求められる新生活様式の中では、学び方や働き方に対する意識にも大きな変革が求められています。リハビリテーション科学の分野でもAIの活用は進むと思われますが、リハビリテーション分野の研究課題も多様化し、発展していく分野であると思っています。

そこで、リハビリ職以外にも地域共生社会の実現に取り組む様々な方の実践報告、課題提供など、本誌がリハビリテーション科学の発展のみならず、地域共生社会の実現に向けて、人々の健康で安全な生活を考究する機関誌となることを願っています。